

校長通信

Morifun

<卒業に寄せて>

今日は卒業記念礼拝・同窓会入会式、卒業式予行、そして土日を含んでいよいよ卒業式です。私自身、小中高大と4回卒業式を児童、生徒、学生として経験してきました。教員となってからは、送る立場として都合33回目の式となります。本来は34回目の式となるはずが、1回少ないのは昨年の式が新型コロナウイルスで急遽中止となったからです。あれからもう1年になります。昨年は安倍前首相の突然の休校宣言の中、HRで担任から卒業証書を授与してもらい、式辞は一斉放送しましたが、送辞も答辞もない(プリント配布)形となりました。「それはそれで思い出になりました。」という言葉を残して去っていった卒業生もいましたが、晴れの舞台が無くなった喪失感はなかなか消えませんでした。今年は規模を縮小してではありますが何とか開催にこぎつけそうです。

<卒業写真のはなし>

この時期になると必ずどこからともなく流れてくるのがユーミンの『卒業写真』です。ユーミンといえば高校時代に『ひこうき雲』がヒットして、私は一体どんな素敵な女性が唄っているのだろうと、荒井由実というシンガーソングライターの正体に心をときめかせました。後に実態がわかって多少がっかりしましたが、それで歌が

汚れたわけではなく、むしろその詩と曲のセンスの良さにずーと惹かれっぱなしです。この『卒業写真』という曲は3枚目のアルバム『COBALT HOUR』(1975年リリース)の1曲、1975年といえばちょうど高校3年の時ですが、タイムリーで聞いたかという今ひとつ覚えがありません。大学に行ってからユーミンの好きな曲の一つにカテゴライズされた気がします。この曲はハイ・ファイ・セットのデビュー曲でもあり、リードボーカルの山本潤子の透き通った歌声も素敵です。

悲しいことがあると 開く皮の表紙 卒業写真のあの人は やさしい目をしてる…

素敵な歌、素晴らしいバラッドです。でも実はこの歌に共感できない自分がいます。好きではあるが共感できない。なぜかという、卒業アルバムの自分の写真に納得できないからです。坊主頭(当時我がバレーボール部は必ず五分刈りが決まりでした)から微妙に伸びた髪がいわゆるダサイ、笑おうかどうしようか迷ってしまい、はにかんだような表情が情けない、高校生の頃の自分の顔を今さら美化してもしようがないので、この点は百歩退いて譲るとしても(百歩も退く必要はないが)、絶対譲れないことがあるのです。それは部活動の集合写真がないことです。写っているのは練習風景、それも我々ではなく、1個下の後輩たちが載っているのです、まあ小さくて顔もよく分からない程度の写真ですが。これは前代未聞。同窓会なんかあって、そういえばあいつは何部だったのかな、と調べて探すことができないのです。勿体ないというか情けない。高校時代の思い出がひとつはぎ取られたような感じなのです。それだけでなく当時スマホもなければ写真なんかあまり撮る習慣もなかった。私にはユニフォーム姿の写真なんて1枚もありません。

というわけで、高校時代の卒業アルバムを開くことはほとんどありません。最近、悲しいこともあまりないし、淋しいことは多少はありますが…

あの頃の生き方を あなたは忘れないで あなたは私の 青春そのもの

そんな人に出会ったか?といえ、どうでしょう。実はこの曲の「あの人」とは異性の恋人や同級生ではなく、ユーミンが高校時代に通った美術教室の女教師だということです。意外なエピソードがこの曲には隠れているらしいのです。長くなるので省略しますが。

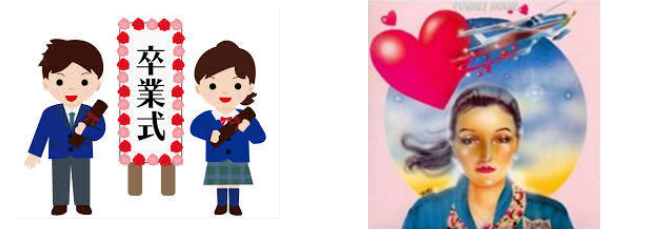
3月は別れの季節、どうしてもこの時期は多少センチメンタルな気持ちになるのかもしれませんが。この学び舎を去って行く盛附生の胸の中にも、たくさんの思い出(素晴らしい思い出だけでなく、忘れたい思い出も含めて、それもまた青春)が詰まっていることを祈っています。

人ごみに流されて 変わってゆく私を あなたはときどき 遠くでしかって

卒業生各賞受賞者

各賞の受賞者の皆さんです。それぞれ文武両道の実践に取り組みました。おめでとうございます!(敬称略)

理事長賞	山田 美空
日本私立中学高等 学校連合会会長賞	井上 尊人
功労賞	浅沼 大将 太田 陽紀 佐藤 碧 清水畑 永和 鈴木 壘 仲村 魁斗 大坂 颯希 小田 翔大 武藏 旭 阿部 乃暉 吉田 大成
皆勤賞	浅沼 大将 三船 治人 小田 翔大 佐藤 永樹 武田 翔太 野田 壮真 武藏 旭 阿部 乃暉 遠藤 桃次郎 狐崎 絃円 中屋敷 凱 吉川 颯太 小笠原 凌太 佐々木 結姫 高橋 真優
答辞・記念品贈呈の辞	吉田 大成



<礼拝より> 花巻教会牧師・鈴木道也先生

新約聖書 マタイによる福音書 22章 34-40節

ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

先週、フィッシング詐欺メールというものにひっかかってしまいました。スマホのショートメールに不在通知を装ったメールが届き、詐欺に気づかずにクリックしてしまったのです。すると、グーグルChromeにそっくりな画面が出てきました。アップデートする必要があるとあったので、アカウントの個人情報を入力しました。その直後、知らない人からたて続けに電話がきました。私を宅配業者だと思っている電話でした。私の携帯番号で、見知らぬ方々に不在通知のショートメールが届いてしまったのです。スマホが乗っ取られ、色々な人に同じ内容の詐欺メールを送信していたのです。警察に連絡し、強制的に初期化しました。

それから間もなく友人にフィッシング詐欺メールにひっかかりスマホが乗っ取られた旨を伝えると、「大変でしたね。それにしてもそんな風に人を騙すなんて悪い人たちですね」と言ってくれました。その言葉で、私はハッとしました。(そうか、悪いのは確かに騙した人たちの方だな)、と。その言葉を聞くまでは、そのような詐欺メールに引っ掛かってしまった自分が「悪い」と思っていたのです。考えたらかおかしいとすぐ気づくような詐欺に引っ掛かってしまった自分が「恥ずかしい」「情けない」「駄目な人間」だと責める気持ちが心のどこかにありました。でも悪いのは騙された人ではなくて、騙した人の方です。

このことから思ったことは、新型コロナに感染した方々

の中にはいま、「感染した自分が悪い」と思い自分を責めてしまっている人がたくさんいるだろう、ということでした。人から人へと拡大してゆく点においても、詐欺メールとウイルスは似ているところがあります。周囲から冷たい対応を受けるだけではなく、他ならぬ、自分で自分を一番責めてしまっている。特に他の誰かに感染させてしまった人のその自責の念はどれほど激しいものだろう、と思いました。

たとえ本人がどれほど気を付けていたとしても、感染するときには感染するのがウイルスというものです。いま改めて、「感染したあなたは悪くない」とのメッセージを互いに伝え合ってゆくことがとても重要であると思っています。感染したことも、感染させてしまったことも、その人のせいではありません。「あなたは悪くない」——私たちがなすべきことは、感染した方の体調が回復することを祈ること、互いに労わりあい、支え合ってゆくことです。

マタイによる福音書の一節は「神と隣人とを愛する」ことが聖書において最も大切な教えであることを伝える箇所です。《隣人を自分のように愛しなさい》には、《自分のように》という言葉が入っています。神さまと隣人を愛すると共に、自分を愛することも欠かせないことであるのです。自分を大切に、人を大切に、そして神さまを大切にすること。特に、新型コロナによって様々な影響を受けているいま、「自分自身を大切にすること」姿勢がとても重要になっているのではないのでしょうか。(1月26日)

新約聖書 ヨハネによる福音書 8章 31-32節

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

「空気を読む」という言葉があります。私たちの社会では、場の空気を読むことが重視される傾向があります。反対に、「空気を読まない」ことは、否定的に捉えられます。十数年前には、「KY」が流行語大賞にもなりました。

場の空気を読むことは、人とのコミュニケーションを円滑にします。一丸で何かに取り組んでいるとき、空気を読

んだ言動は潤滑油のような良い働きをします。一方で、空気を読みすぎることの弊害もあります。場の空気に支配され、自分の想いや考えを自由に口に出れなくなる弊害です。場の空気は目には見えませんが、大きな影響を与えています。私たちは多かれ少なかれ、その場の空気の影響を受けています。日本の社会は特にこの「空気の支配」が顕著だという指摘もあります。空気の支配は「同調圧力」という言葉で言い換えることもできるでしょう。

昨年は新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、「みんなと同じでなければならない」とする同調圧力が特に強くなった1年でした。みなと同じ行動を取らない人を攻撃する風潮も見られました。もちろん、みなで一丸となって感染予防に努めることはとても大事なことです。と同時に、ウイルスについての考え方や予防の仕方は、人によって異なっていることも事実です。大変な状況であるからこそ、それぞれが自分の考えや想いを自由に口に出ることができることは大切なことです。

聖書の福音書を読んでいて分かることは、イエス・キリストは一部の人々の目には、明らかに「KYな人」として映っていたことです。特にそれは、権力をもった人々にとって、そうであったでしょう。イエス・キリストは場の空気を壊すことを恐れず、権力者たちを前にして、言うべきことをはっきりと指摘されました。イエス・キリストは自分の中に真理——本当に大切なこと——を軸としてしっかり持っていて、そこから言葉を発していました。私たちにとって本当に大切な言葉は私たちを縛り付けるものではなくて、反対に、私たちを自由にしてくれるものであることが語られています。私たちに伝えて下さっている真理とは、「一人ひとりの大切さ」です。神さまの目から見て、私たち一人ひとりがかけがえのない存在であること。その真理に基づいて、イエス・キリストは言葉を発し、行動を起こされました。私たちがより自由に、より自分らしく生きてゆくことができるようになるために——。勇気をもって、「空気を読まない」言葉を発し続けたイエス・キリストのお姿をご一緒に心に留めたいと思います。(2月2日)